70年目の夏を迎えて

～語り継ぐべき平和への思い～

多くの尊い命が犠牲になった太平洋戦争の終結から、今年で70年の節目を迎えます。平和で豊かな生活を送る私たちは、戦時中の都城で起こった出来事の重さをしっかりと受け止め、その恐ろしさや悲惨さ、苦しみ、悲しみの記憶を未来へ語り継いでいかなければなりません。この節目の年に、今一度、平和について考えてみませんか。

◎問い合わせ　秘書広報課　☎23-3174

空襲を受けた都城市

戦時中、都城には陸軍連隊が置かれ、市内に3カ所の飛行場と民間の航空機工場があったことから、空襲の標的になりました。

昭和20年3月18日から、8月6日までに20回余りの爆撃を受けた本市。8月6日の大空襲では、市内の中心部が大きな被害を受け、明道小学校をはじめ、1、897戸の商店や民家が焼失しました。これらの空襲により1万7、284人が被災し、43人が負傷、101人の尊い命が失われました。

戦時中の市民の暮らし

昭和19年7月4日に初めて警戒警報が発令されると、10月11日には空襲警報も発令。市民の暮らしは日増しに緊張が高まっていきました。空襲に備えて、家の庭には防空壕（ごう）が掘られ、駅などの施設の近くにある家などは、延焼を防ぐために取り壊されました。

多くの男性が戦場に送られたため労働力が著しく不足。女性や学生までもが工場で労働を強いられました。

また、食料などの物資が不足したため配給制となり、学校の運動場や公園などは全て畑として使われました。

中小型五十八機
白昼都城を焼爆
市内數ヶ所に火災發生
消火中更に銃爆撃
B29延岡に投爆

昭和20年８月８日の日向日日新聞の記事

特攻機の配置と出撃

戦況が厳しくなった昭和20年、都城に四式戦闘機「疾風（はやて）」を備えた特別攻撃隊と、第100飛行団が配置されました。

都城西飛行場から沖縄周辺に向け4月6日、第一特別振武隊8人が出撃。7月1日までに、都城西・東両飛行場から延べ17回に及ぶ出撃を実施し、多くの特攻隊員と掩護（えんご）機隊員が戦場へと向かいました。隊員のほとんどは20歳以下で、日本の勝利と家族の無事を信じ、南海に散っていきました。

昭和52年、遺族の協力の下、都島公園（旧陸軍墓地）に慰霊碑を建立し、以降、第一陣が出撃した4月6日に、慰霊祭が毎年開催されています。

戦時中の主な出来事

年代	国内の出来事	都城市内の出来事
昭和16年（1941）	太平洋戦争始まる	
昭和19年（1944）		川崎航空機工場が郡元に創設
昭和20年（1945）	米軍が沖縄に上陸	都城から特攻機が出撃（4月）
	広島、長崎に原子爆弾が投下される	甲斐元町上下部橋付近に爆弾が投下される（5月）
	ポツダム宣言受諾	大空襲で、1、897戸が焼失（8月）

※参考文献：都城市史

奉仕活動を行う市民

次世代に語り継ぐ平和への願い

都城で空襲のあった昭和20年、私は小学4年生でした。5月には千町の家の近くにあった川崎航空機工場の寮が爆撃され、学徒動員されていた小林中学校の生徒らが、病院に担ぎ込まれる姿を見て、戦争の恐ろしさを目の当たりにしました。

都城大空襲のあった8月6日は、空襲警報のサイレンが聞こえて間もなく、米軍機が来襲。自宅の防空壕に逃げ込む余裕さえありませんでした。家の中から恐る恐る外を見ると、操縦士の顔が見えるぐらいの低空飛行で上空を飛んでいました。私の家の周りは無事でしたが、天神町に住んでいた姉の家族が爆撃の被害に遭い、親子3人が焼死しました。終戦後に復員した姉の夫が3人の位牌を前にした時の悲愴な姿は、今でも忘れられません。

遺族会では、空襲で亡くなった人たちを悼み、平成11年、神柱公園内に追悼碑を建立。毎年8月5日に追悼式を開催しています。また、悲惨な戦争があったことを忘れないよう語り継ぐため、市内の小学校を回り、子どもたちに戦争体験を話しています。子どもたちは、自分たちの住んでいるところでも空襲があった事実に驚き、熱心に話を聞いてくれます。

こうした活動を続けることで、多くの人に戦争の悲惨さを知ってもらい、二度と戦争が起こることがない平和な世の中が続くよう願っています。

都城空襲犠牲者遺族会　代表
地頭所（じとうしょ） 栄八（えいはち）さん

歴史に学び、平和への誓い新たに

戦後70年企画展

近代戦争と都城
－平和の尊さを考える－

人々が戦争をどのようにとらえ、どんな思いで生き抜いたかを紹介する企画展を開催します。

問　文化財課　☎23－9547

●**会期**　7月23日㈭～11月29日㈰
●**場所**　都城歴史資料館（都島町）
●**観覧料**　大人210円（160円）　高校生以下無料
※（　）内は20人以上の団体料金
●**展示内容**
・日清・日露戦争の時代
・軍都都城の誕生
・帝国日本の拡大
・大陸へ渡った人々
・昭和10年の陸軍特別大演習
・広がる日本と中国の戦争
・太平洋戦争
・出征した人々
・戦争と暮らし
・戦時下の学校
・都城の飛行場
・特攻機の出撃
・都城への空襲
・終戦

勤労奉仕に動員された女性

特攻隊員の出撃

特攻隊員の遺書

戦没者・空襲犠牲者合同追悼式

市では戦争で命を落とした人たちの冥福を祈るとともに、平和への誓いを新たにする合同追悼式を、都城大空襲のあった8月6日に開催します。式典では、遺族や関係者、市民の参列のもと、市内の小学生による平和学習の発表などを行います。

問　福祉課　☎23－2980

●**日時**　8月6日㈭　10時開式
●**場所**　総合文化ホール

千羽鶴を献納する児童ら

※式典は誰でも参加できます。また、市内各地の遺族会や奉賛会でも、戦没者慰霊祭を開催します

Three treasures of Miyakonojo 宝 Ⅲ

輝きを増した「3つの宝」

次世代を担う子どもたち

市では、本市の持つ「3つの宝」を輝かせる取り組みを進めてきました。これまで3カ月連続の特集として、1つ目の宝、基幹産業である農林畜産業と、2つ目の宝、都城の「地の利」を輝かせる取り組みを紹介。最終回となる今回は、3つ目の宝、次世代を担う子どもたちを輝かせる取り組みと、その他の特に成果のあった事業を紹介します。

◎問い合わせ　秘書広報課　☎23-3174

都城島津邸で開催される郷中（ごじゅう）教育

「次世代を担う子どもたち」を輝かせるための取り組み

市では、世界に羽ばたく人材を育成するため、基礎学力と人間力の向上に加えて、英語教育の充実などに力を入れています。

基礎学力と人間力の向上対策として、小学校に学校図書館サポーターを増員。児童の読書環境の充実を図りました。語学力の向上では、外国語指導助手（ALT）を増員。豊かな国際感覚を身に付ける機会を増やしました。

また、小中学校の校舎などの耐震化工事の年次的な実施と併せて、たくましい体と豊かな心を育むことを目的とした、スポーツや文化活動の施設整備にも取り組んでいます。加えて、市内全ての小中学校に「学校運営協議会」を組織。地域に開かれた学校「コミュニティ・スクール」の実現に向けた取り組みを進めています。

この他、郷土愛にあふれた子どもを育てるため、地域の祭りや行事への参加を促す郷土教育を進めています。さらには、第3日曜日を「家庭の日」として、家族の絆を深める機会を促しています。

市では、これらの事業を通して、人間力あふれる子どもたちを育成するための取り組みを着実に進めています。

第3の宝～次世代を担う子どもたち

子どもたちの人材育成＝地域発展の礎（いしずえ）

↓

○学習面でのさらなる充実
○スポーツ・文化活動や郷土教育・地域教育などを通しての「人間力育成」

↓

人財創出都市

都城が持つ「3つの宝」を輝かせる

- 基幹産業である農林畜産業
- 都城の「地の利」
- 次世代を担う子どもたち

小中学生の学習環境の充実

ＡＬＴは、英語圏の国々から日本に招致された外国籍の人や英語に堪能な人で、日本人教師を補佐し、「生きた英語」を子どもたちに伝えます。市では、平成24年度、７人のＡＬＴが在籍していましたが、来年度は平成24年度と比較して倍増。語学指導を通して、子どもたちの語学力と豊かな国際感覚を身に付けるための環境を充実させます。

また、市では、小中学校の校舎などの耐震補強工事を年次的に進めてきました。平成24年度末現在、小中学校の耐震化率は約86パーセントとなっていましたが、これまでの整備計画を前倒し。本年度末までに、全ての小中学校の校舎などの耐震化工事が完了する見込みで、児童生徒の安心・安全な教育環境が実現します。

◎人間力あふれる子どもたちの育成

ALTによる語学指導事業　4,154万円

・ALT（外国語指導助手）の語学指導を通して語学力向上・豊かな国際感覚を醸成！
・平成28年度までにALTを倍増（予定）！

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人数	7人	9人	11人	13人	14人

小中学校施設の耐震補強事業　4億3,588万円

・耐震補強による安心・安全な教育環境整備を推進！
・平成27年度までに耐震化率100％を達成（予定）！

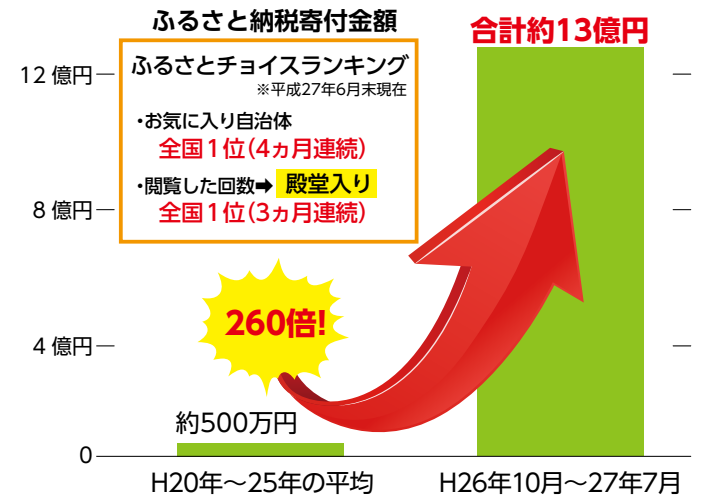
	24年度	25年度	26年度	27年度
人数	86.1％	94.6％	97.8％	100％

ふるさと納税とスポーツ文化合宿が急増

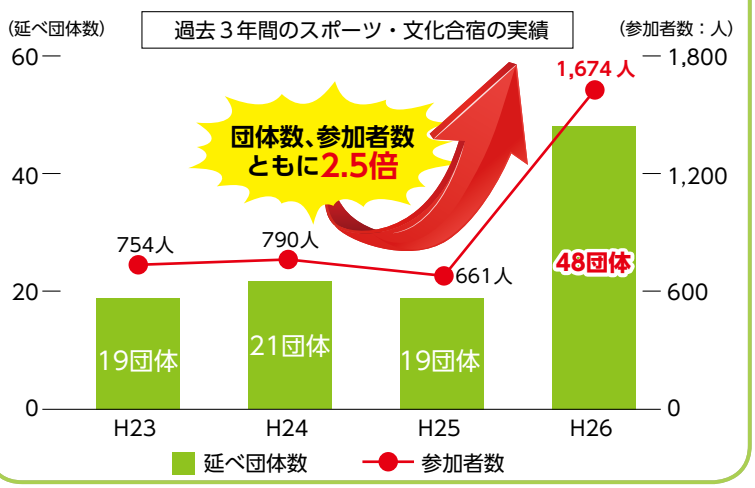
市では昨年度より、市をＰＲするための事業を強力に進めてきました。昨年10月にリニューアルした「都城市ふるさと納税」では、より多くの人に本市を知ってもらう目的で、寄付して頂いた人に贈るお礼の特産品を、本市自慢の肉と焼酎中心の品ぞろえとしたところ、インターネットサイト「ふるさとチョイス」で人気となりました。この結果、昨年度の寄付額が全国９位となり、さらに、リニューアル後の寄付総額は、７月22日時点で約13億円となりました。

また、市外のスポーツおよび文化団体の合宿を誘致する取り組みとして、団体への助成制度拡充と積極的な誘致活動を実施。この結果、誘致した団体と参加者は、前年度と比較してそれぞれ2・5倍となり、多くの人に本市を訪れてもらいました。

◎ふるさと納税 寄付金額の急増！



◎スポーツ・文化合宿の誘致
合宿団体数・参加者数ともに急増！



結びに ～輝きを増す「3つの宝」～

これまで３回にわたり、本市が持つ「３つの宝」を輝かせるための取り組みと、特に成果のあった取り組みを特集しました。市では、今後も明るい未来へと導くこれら「３つの宝」を輝かせる取り組みなどを通して、市民一人一人が輝く「笑顔あふれるまち＝スマイルシティ都城」の実現を目指します。

自分が元気！　家族が元気！　地域が元気！

みんなでこけないからだづくり

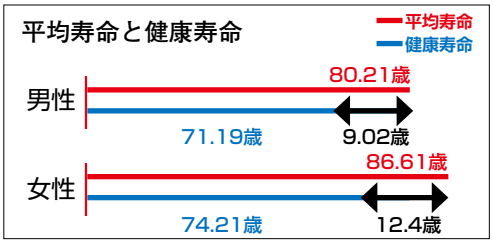
皆さんが住み慣れた地域で、健康で生き生きとした生活を送り続けるためには何が必要でしょうか。市では、介護予防教室「こけないからだづくり講座」を推進しています。健康な体を作るだけではなく、参加者同士で交流を深めることで地域のつながりづくりにも役立つ介護予防教室。皆さんも地域で開かれている同講座に参加してみませんか。

◎問い合わせ　介護保険課　☎23-3184

平均寿命と健康寿命

厚生労働省の発表によると、平成25年度の日本人の平均寿命は、男性80・21歳、女性86・61歳で世界でも上位に位置しています。しかし、平均寿命が長くても、健康に過ごすことができなければ意味がありません。

日常生活を健康に送ることができる「健康寿命」は、男性71・19歳、女性74・21歳となっていて、男女とも平均寿命と比べると10歳近くの開きがあります。



健康寿命とは

なぜ、健康寿命という考えがあるのでしょうか。実は、平均寿命から健康寿命までの差が、介護や看護を受けたり、寝たきりになったりして生活する期間になります。この差を少しでも短くすることで、健康で生活できる期間が長くなります。

国の調査では、国民一人一人の健康意識が高まりを見せていて、健康寿命は少しずつ伸びています。

市の介護保険の現状

市では、介護保険制度が始まって以来、要支援・要介護認定者数の増加とともに介護サービスに要する費用が増加しています。

平成27年度から29年度を期間とする第6期の介護保険事業計画では、介護サービスに要する費用が前の計画よりも約46億円多い約502億円を見込んでいます。介護サービスを利用する人が増えると、65歳以上の人が負担する介護保険料が増えます。

今後、介護予防を積極的に進め、健康寿命を延ばす取り組みが求められています。

こけないからだづくり講座

岡山県津山市で始まった「めざせ！　こけないからだ講座」は、手足に調整可能な100グラム単位の重りを付け、童謡などを歌いながら基本的な動作をゆっくりと繰り返す体操。週1回程度、高齢者の足腰や肩の筋肉をしっかりと鍛えることで、転倒しない（＝こけない）で行動できるようになることを目的とした運動プログラムです。

市では、昨年10月に津山市の作業療法士安本（やすもと）勝博さんによる講演会を開催。その内容を生かして、市民の皆さんと一緒にこけないからだづくりに取り組んでいます。

市の取り組み

市では、昨年10月から、公民館ごとに市の介護保険の現状や、病気やけが予防の必要性などの説明会を開催。その中で、「こけないからだづくり講座」を紹介しています。その後、講座を開催する公民館では、参加者に目標を設定してもらい、初めの4回は、担当職員がこけない体操などを指導。その後、講習を受けた協力員（サポーター）と参加者が、自主的に取り組みます。その他、サポーターは、体操や重りの装着を手伝い、参加者の健康づくりを補助します。

効果と影響

講座の開始から、定期的に体力テストを実施。参加者からは「歩くのが楽しくなった」、「介護認定の等級が軽度になった」などの意見が寄せられ、体力面などの改善が少しずつ現れています。

また、体力づくりだけが目的ではないこの講座。集まることで、会話が弾んだり新たな出会いがあったりして、地域の和が育まれています。

参加者からは「昔のように地域で声を掛け合うようになった」、「会話を通して、趣味の輪も広がった」などの意見も聞かれ、地域のつながりが強くなっています。

地域の皆さんで体操にチャレンジ

現在、市内の46自治公民館で「こけないからだづくり講座」が開催されています。

週に1度、約40分程度の体操と地域の人たちと一緒に過ごすことで、体力向上と併せて、心のリフレッシュにもつながります。開催は、公民館ごとになりますので、講座を開催したい場合は各地区の包括支援センターへ相談ください。

なお、市では、体操に使う100グラムから1キログラムまでの調整可能な重りを貸し出していますので、必要な場合は介護保険課へ問い合わせください。

インタビュー　こけないからだづくり体操のキーワード「体力づくりと地域の絆」

山之口町街区２地域サポーター
有川 俊一郎さん

一人暮らしの高齢者が増え、地域の交流も希薄になったと感じ、地域の人たちが集える場を作りたいと考えていました。昨年、市が開催した「こけないからだづくり」の講演会に参加し、地域の高齢者が集うことができるチャンスだと思いこの講座を始めました。

現在、６人のサポーターに手伝ってもらいながら、血圧を計り、約40分程度の体操をした後、みんなでお茶を飲みながら会話を楽しんでいます。週に１回の講座ですが、参加者の多くが血圧の数値が良くなったり、運動機能が改善されたりして、回を重ねるごとに元気になっています。講座を通して、健康づくりだけではなく、地域のコミュニティを強くすることもできました。

下川東三丁目
津曲 清子さん

50年以上リウマチで苦しみ、少しでも体力づくりに役立つのではないかと思って、この講座に参加しました。通いだして７カ月がたちますが、少しずつ体力が付いてきました。友人からも歩く姿が変わってきたねと言われ、気力が湧いてきます。

講座では、懐かしい童謡を歌いながら体操をするので、お腹から声を出します。前より声が出るようになったので、詩吟教室にも通い始め、趣味の幅も広くなりました。また、講座に参加することで、地域の皆さんと会話ができ、友だちも増えました。健康づくりに加えて、昔のような地域の絆が戻ったこともうれしいです。これも、サポーターの皆さんの力添えがあるからだと思っています。